



大阪泉南地方における伝統的民家の平面と小屋組架構の変遷に関する研究 — 中井家支配と民家建築 —

k00014 因幡 亮介

1. はじめに

1-1 研究の目的

大阪泉南地方は、大阪府南部に位置し、大規模な古民家が多く現存し、未だに調査されていない民家も数多く残っている。関西地方の民家は関東地方に比べ歴史は古く、また近世に江戸幕府京大工頭中井家の支配下にあり、建築の規制を強く受けた地域である。本研究はこれまで研究室で実測を行ってきた各住居と重要文化財中家住宅の再調査を行い、今年度新たに実測した1軒を加え、まずは平面形式・小屋組架構の変遷と形式過程を明らかにする。その上で合計7軒の民家に対し、中井家による建築統制のあり方に関し、考察する。



図1 調査家屋の位置

1-2 研究の方法

- 平成15年6月に先行研究である8軒の再調査を行い、10月に泉州岸和田市下松町の荻野家の実測調査及び和歌山県橋本市の伝統的民家の見学を実施した。
- 調査した荻野家の現状図面を材痕跡、開取りによる増改築の経緯を基として復原を行い、その平面形式・小屋組架構を時系列に沿って把握する。
- 同地域の重要文化財の中家、先行研究で調査した井坂家・森家・谷口家・七里家・田宮家・信貴家・義本家、今年調査した荻野家の合計9軒を合わせてその時代、

地域の民家がどのような平面形式・小屋組架構であったかを分析して、その変遷と現在に至るまでの形成過程を明らかにする。

- ③で分析した住居のうち、建設年代が昭和初期である田宮家、義本家を除く、残り7軒の復原平面、復原架構について、「梁間三間梁規制」等の建築統制の有無を確認し、中井家支配外であった紀州の同時代・同規模の民家と比較する。

1-3 中井家とその支配について

中井家は江戸時代を通じて幕府の京都大工頭に勤めた。初代中井正清（1565年～1619年）は徳川家康に重用されて頭角を現し、徳川家の御大工として大変重要な作事に携わった。中井家の職務は公儀作事的设计図、積算、入札図書の作成、現場の見廻りなどである。また6カ国の寺社や農家の普請願書を受け付け、幕府の禁令に違反していないかどうかをみるものであった。

2. 調査対象民家について

2-1

表1 荻野家概略表

概要	名称	荻野家住宅
	所在地	岸和田市下松町2-7-12
	建設年代	享保7年(1722年)と文化5年(1808年)と明治初年に建て替え
	構造方式	基礎 切石布石・切石独立基礎 軸組 京杵組 小屋組 土間部分は登り梁+和小屋、居室部分は和小屋を基本とする
各部構造	床	部屋(畳・板敷) 土間床(三和土)
	屋根	瓦葺入母屋造
	外壁	真壁(一部腰壁(漆喰塗り、腰壁は板壁))
	増改築	1. 昭和13年頃 蔵を壊し、離れをつくる 2. 昭和33年頃 土間に台所をつくる 3. 昭和60年頃 台所近くに便所を増設 4. 平成10年頃 土間横の書斎を改装 5. 平成14年 風呂場を改装

2-2 平面構成

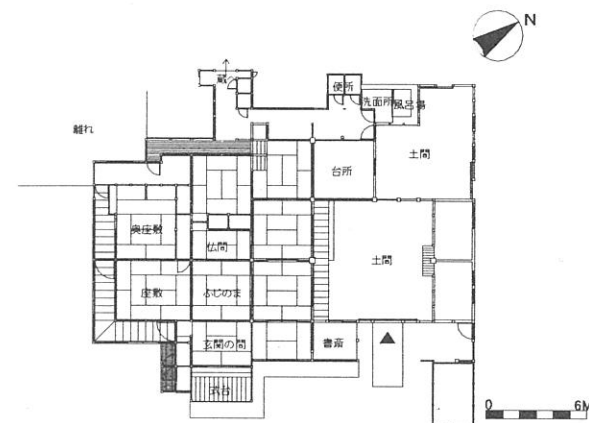


図2 荻野家 平面図 (現状)

現在の荻野家は明治初年(1870年頃)の建設である。それ以前にも棟札により享保7年(1722年)と文化5年(1808年)に建て替えたことがわかっている。現在の主屋はすなわち4棟目の建築であり、明治の初年頃に建てられた。昭和に入ってから蔵部分と台所を改築し、便所を増築している。平成に入ってから土間横の書斎を改装し、風呂場を改装している。

2-3 小屋組架構について



図3-1 荻野家 断面図 (現状)

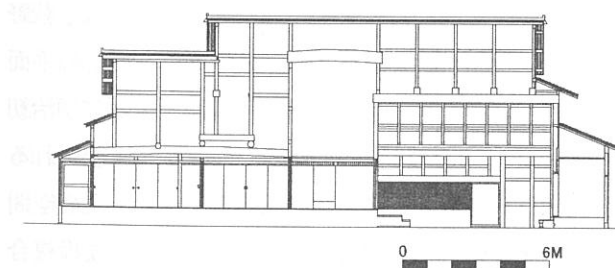


図3-2 荻野家 桁行断面図 (現状)

荻野家の主屋の特徴は土間上部の登り梁+和小屋、居室上部は和小屋である。屋根部分は全体的にむくっており、そういった屋根の形はこの地方独特の傾向である。土間空間は大変広く、太い登り梁を組んだ豪壮な空間であった。

2-4 荻野家所蔵中井家関連文書について



図4 荻野家より見つかった古文書(太枠内「庄屋源兵衛」)

荻野家には寛政9年(1797年)の中井役所に宛てた古文書が残されており、図4にその1部を示す。文中の「庄屋源兵衛」が荻野家の当時の当主である。上記資料により中井役所による建築統制が当地に及んでいたことは明白である。この古文書の内容は下松村の寺院(往生院)の屋根の建て替えに関する願書である。そこで庄屋源兵衛が施主となり、沼村の大工新六が「中井藤三郎役所」にこの願書を提出し、中井役所からはこの書面裏に「絵図のとおり施工しなさい」と許可を出し、新六に戻されたものである。



写真1 荻野家・庭より玄関



写真2 荻野家・居室上部小屋組

3. 荻野家の平面形式と泉南の伝統的住居

3-1 荻野家平面の復原

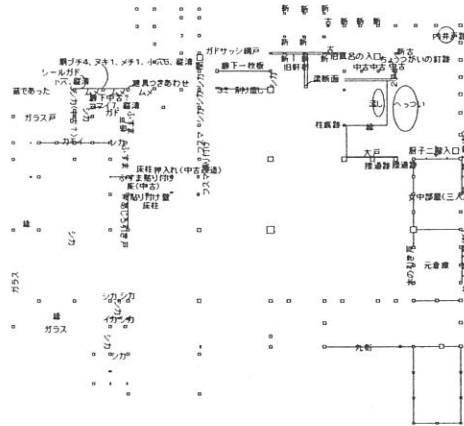


図5-1 荻野家 痕跡図

荻野家は明治初年の建築であり、主屋の改造は基本的に少ない。そこで主に聞き取りと材痕跡による復原を行った。その結果、台所は元来土間で現在の風呂場横に古い基礎の跡があり、風呂場が改造されたと考えられる。

3-2 荻野家住宅の平面の位置づけ

表2 各戸平面変遷表

江戸初期 江戸中期 江戸後期 明治 大正 昭和

中家当初

中家現状

森家前身建物

森家当初

森家現状

信貴家当初

信貴家現状

井坂家身建物

井坂家当初

萩野家当初

萩野家現状

七里家当初

七里家現状

谷口家当初

義本家当初

田宮家当初

田宮家現状

D.....ダイコロ
DO.....土間
E.....式台または玄関
㌞.....仏間または仏壇
N.....納戸
Z.....座敷

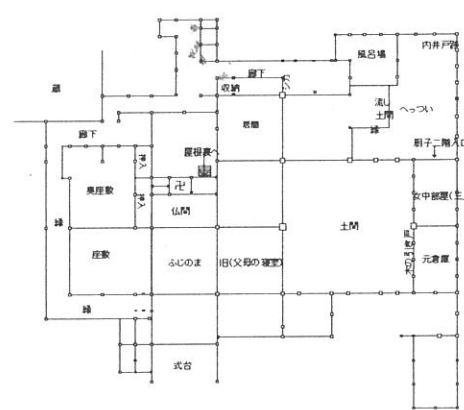


図5-2 荻野家 中古復原図（昭和初期頃）

そして、現在離れの部分が昔は蔵であったことはわかっている。台所近くの土間には下女中の部屋に上がる入り口があり、現在改築され洋室になっている部屋の屋根裏に部屋があったと考えられる。

今年度調査した荻野家の平面復原図と現状図面に、先行研究で調査した7軒の復原図と現状図面（井坂家においては家相図における前身建物図面）と中家の建設当初図面と中古図面を加えた合計9軒の平面形式の特徴を比較検討する。各戸の平面形式の変遷について、時代軸に沿ってまとめたものが表2である。その結果、荻野家の平面形式は井坂家同様、大規模複合型平面であることがわかった。井坂家とは逆の位置に座敷を設けていて、荻野家は本勝手、井坂家は逆勝手となっている。荻野家と井坂家はほぼ左右反対の平面をしている。建設年代が共に明治初期のため、江戸初期によく見られる食い違い三間取りよりも生活空間においてはより自由な大規模複合型平面になっていったと考えることができる。

4. 荻野家の架構形式と泉南の伝統的住居

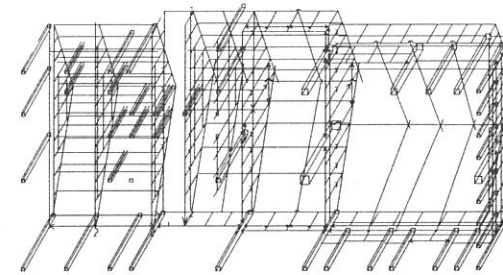


図6 荻野家 架構図

表3 建築規制表

名称			中家	森家	信貴家	七里家	井坂家	森野家	谷口家
禁止事項 建設年代			江戸初期	寛政12年(1800年)	江戸後期(1800年前後)	明治元年(1868年)	明治初期(1870年)	明治初期(1870年)	大正11年(1922年)
	禁令の出された年代	根拠							
座敷2間半以下	正保3年(1646年)	徳川禁令考	○	○	○	○	○	○	○
ダイコロ2間以下	正保3年(1646年)	徳川禁令考	○	○	○	×	○	○	○
室内の金・銀・箔の使用	正保4年(1647年)	大阪町中経法度追加	○	○	○	○	○	○	○
3階建禁止	正保4年(1647年)	大阪町中経法度追加	○	○	○	○	○	○	○
梁の間以下(縁の有無)	明暦3年(1654年)	御当家令条	×(有)	×(有)	×(有)	×(無)	×(有)	×(無)	×(無)
									
		上屋梁行寸法(間)	4	3.5	3.5	4	3	4	4
庇1間半以下	元禄7年(1694年)	御法度書	○	○	○	○	○	○	○

5. 中井家支配による建築規制とその影響

江戸時代における民家に対する建築規制を挙げ、調査研究対象民家がどのように規制を受けたかの有無をまとめたものが表 3 である。まず七里家と谷口家はダイドコロが 3 間以上あるがそれは江戸時代から明治、大正と時代が変わって建築規制を受けなくなったことで、ダイドコロという生活に密着した空間が自由になったと考えられる。また梁間 3 間規制においてはすべての民家において守られておらず、農家という特質上（土間での収穫作業など）3 間梁では、農家の作業に差し支えるので守られていなかったと考えられる。そして屋根に鋳（しころ）葺きを用いることによって梁間 3 間規制から逃れていたと考えることができる。尚、鋳葺きとは屋根の流れ面の途中で屋根勾配が一段下がり全体として 2 段となっている屋根の葺き方のことである。

一方、泉南地方に隣接する紀州の民家を先行研究で調べてみると、鋳葺きが残存しており、中井家支配外であった紀州においても梁間 3 間規制がかかっていたと考えることができる。

6. 結論

明治初期の平面形式としては江戸時代における建築規制がかからなくなったため、江戸初期にみられる食い違い三間取りではなく、この地方の庄屋階級民家の発展系である大規模複合型平面が挙げられる。小屋組架構は「和小屋＋登り梁」で先行研究によって見られるものとは異なり、土間上部に登り梁を用いている。また中井家支配外である紀州の民家にも鋳葺きを用いているものが見られ、泉南地方、紀州共に梁間3間規制などの建築規制がかかっており、規制がなくなった明治初期においても鋳葺きがその地方に残存したと考えることができる。

〈参考文献〉

- ・ 「中井家大工支配の研究」 谷直樹 著 思文閣出版 1992 年
- ・ 「大工頭中井家建築指図集」 谷直樹 著 思文閣出版 2000 年
- ・ 「減ひ行く民家」 川島甫次 著 主婦と生活者 1973 年
- ・ 「近世町家における梁間規制と鍔葺き」 大場 修 著 2000 年
- ・ 「日本の民家3 民家Ⅲ」 工藤 圭章 編 1981 年